東泉 小地区

コミュニティ委員会

東泉小地区コミュニティ委員会は、書道や剣道、他にはビーチボールバレー、サッカー、テニス、バドミントンなどさまざまな活動をしています。

いよいよ、東京２０２０大会が目前に迫ってきましたね。オリンピック間近ということで、現役でバドミントンを一緒にしている女性お二人（仮名A子さん、B子さん）に、東京オリンピックについてインタビューしました。

A子さん、B子さんは、東泉小学校で火曜日に一緒にバドミントンをしています。また、他の日にもバドミントンをしているそうです。A子さんは、バドミントンの他に演歌体操に参加されたり、さらに毎朝ラジオ体操にも参加しています。ラジオ体操は、雨の日も人が集まれば開催するとのことなので驚きです。年齢の公表は控えますが、東京１９６４大会をテレビや会場で応援していた世代の方々です。

さて、A子さんとB子さんのオリンピックの思い出話について伺ってみましょう。

Q. 東京１９６４大会開催時、おいくつくらいでしたか？

A子さん：20代だったわよ。ちょうど結婚した時だわ。

B子さん：私も20代。オリンピックの翌年に結婚したわ。

Q. 特に印象に残っている競技を教えてください。

A子さん：代々木の国立競技場で棒高跳びを見たわ。すごい迫力だったのよ。

B子さん：バレーボールを見たわ。会社でバレーボールをしていたのよ。東洋の魔女、提灯ブルマー、河西選手…懐かしいわ。

Q. 東京２０２０大会を迎えるにあたって一言お願いします。

A子さん：メダルを期待しています。頑張ってほしいです。とくにバドミントンやテニス等のラケット競技に期待しています。

B子さん：日本のバドミントン勢や卓球等がどれだけがんばってくれるか今から楽しみです。

私、筆者個人の話ですが、先日パラリンピック競技である車椅子バドミントンをテレビで拝見しました。ラケットを持った状態で車椅子を操作し、素早くタイヤを回転させながら前後に動き回り、後方に飛んできたシャトルを追いかけます。そして、後ろに倒れるギリギリまで背中を大きく後ろにそって、ラケットを大きく前に振り切りながら、相手コートにシャトルを返します。絶妙な技で相手を振り回し、相手の手首の動きや視線などをよく観察し、フェイントをかけながら、点を奪い合っていました。シャトルは想像より早く飛びます。そのシャトルを床につけることなく、ラリーを続ける選手の姿は格好良いなと思いました。会場で応援できたらうれしいです。

余談ですが、筆者は車椅子体験をさせてもらったことがあります。自分の全体重を腕の力のみで動かすということがこんなにも大変なのかと体感しました。ほんの少しの坂の段差も、私は一人では登れませんでした。手を貸してほしいと全ての人が求めているわけでありません。ですが、声をかけあえる地域が広がっていけば良いなと思いました。

スポーツ観戦は、見ていてハラハラドキドキしますよね。そして、応援していると実際にスポーツをしたくなる方も多いのでは？そんな方はぜひ、コミュニティで一緒にスポーツしませんか？そして、皆さん一緒に東京２０２０オリンピック・パラリンピックを応援しましょう。頑張れ日本！

星野　ひと美

運営委員長から一言

東京２０２０オリンピック・パラリンピックの開催はとても嬉しく思います。ただ、室内競技はクーラーが設置されているため、大丈夫かと思いますが、外で行う競技は大変暑い夏の日であるため、選手の体調等心配です。私達一家はスポーツが大好きで観ることだけでなく、実際に競技することも大好きです。長年、夫婦でビーチボールをしていましたが、今では子供達が私達夫婦以上にのめりこんでいます。今回のオリンピック・パラリンピックはメダルを期待しています。特にバドミントンは男子、女子ともに楽しみです。

運営委員長　加藤　晴美

浅草 小地区

コミュニティ委員会

浅草小地区コミュニティ委員会は17団体が所属し、子供から大人まで幅広く活動しております。今回は、東京オリンピックを控えて盛り上がっているミニバスケットボールクラブの「ドリームス」を紹介させていただきます。

運営委員長　八田　久美子

浅草ミニバスケットボールクラブ「ドリームス」

男子バスケットボールは、44年ぶりに開催国ではありますが、オリンピックの出場権を獲得しました。メンバーは今年NBAドラフトで1順目指名を受けた八村塁選手を擁するドリームチームになる予定です。女子は走るスピードバスケで、メダルを狙っています。

オリンピックが盛り上がると、子供達も盛り上がります。浅草小学校に集まる元気いっぱいの子供達はプロバスケットボールのプレーに憧れて様々な技を繰り出します。ドリブルでもクロスオーバーはもちろんのこと、レッグスルー、バックビハインドなどのプレーはお手のものです。

そんな子供達を大人達が笑顔で見つめています。わが浅草ミニバスケットボールクラブは、ミニバスケットボールという競技を通じて地域の子供達を活性化する為に、地域の大人達が設立しました。そのため、この盛り上がりは大人達にとって、とても嬉しいことなのです。元気な子供達は地域の「宝」です。

競技人口でみるとバスケットボールは約４・５億人で世界一です。サッカーは約２・６億人ですから２倍弱になります。これだけ多くの人々が楽しんでいるバスケットボールで多くの友達を作り、一生懸命になる楽しさを分かち合い、競技を通じて心も鍛えて欲しいと願っています。

チーム名は「ドリームス」です。子供達は我々大人の夢でもありますし、子供達に夢を持って欲しいと名付けました。

福田